

ETERNAL TRUTH



2019 年 **11 月**

「彼を知るために」 「生ける神の印（Ⅱ）」 「天における礼拝」 「なすとオクラと玉ねぎの煮浸し」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

生ける神の印(Ⅱ)

4

聖書の教え

朝のマナ

彼を知るために

7

That I May Know Him

現代の真理

「天における礼拝」

38

神の栄光ともう一つの声

力を得るための食事

「なすとオクラと玉ねぎの煮浸し」

42

レシピ

お話コーナー

「ヘロデの前で(Ⅰ)」

44

イエスの物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465 FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2019年10月6日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page, Sermon View on page

40

Printed in Japan

キリストの再臨を迎える準備

愛する兄弟姉妹がた。われわれは、キリストが間もなく来られることと、われわれは、罪の世界に伝えるべき最後のあわれみのメッセージを持っていることを、心から信じているだろうか。われわれの模範は、正しいものであろうか。われわれは、自分たちの生活と聖い行状とによって、われわれの卑しいからだをご自身の栄光のからだと同じかたちに変えてくださるわれわれの主、救い主イエス・キリストの輝かしい出現を待ち望んでいることを、周囲の人々に示しているだろうか。われわれは、これらのことを十分に信じ、理解してはいないのではないかと思う。われわれが宣言している重大な真理を信じる者は、その信仰を実行しなければならない。...

時には、勝利を得ようと努力して、勝利することもあるが、もしもわれわれがそれを持続させずに、... 誘惑に耐えられ ... ないならば、われわれは、黄金よりも尊い信仰の試練に耐えることができない。...

われわれのなすこと言うことがすべて、ただ神の栄光のためでなければならない。もしわれわれの心が、次の重要な言葉に深い感動をおぼえ、常にそれを心に留めているならば、われわれは、そうたやすく誘惑に陥ることはなく、われわれの言葉は、少なく、よく選ばれたものとなるであろう。「彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ」「人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならないであろう」「あなたは... わたしを見ていられる」。

われわれは、こうした重要な言葉を思い、あわれなわれわれ罪人が、ゆるされてイエスの尊い血によって神に贖われるために、イエスが苦しまれたことを思いおこすときに、われわれは、神に強く心を動かされて、... このようなことを常に心に留めているならば、自己は、その誇りとともに低められて、その代わりに、他人の譴責にも耐えて、軽々しくいきどおらない、幼児のような単純さが与えられる。わがままな精神は、心を支配しなくなる。

真のキリスト者の喜びと慰めは、天になければならず、また、そうなるのである。来世の力と、天の喜びを味わった人々の心の熱望は、地上のことでは満足しない。このような人々は、ひまな時にも、なすべきことを十分に見いだす。彼らの心は、神にむかって引かれる。宝のあるところには、心もあるのであって、彼らは、自分たちが愛し礼拝する神との、楽しい交わりをもつのである。... 彼らが、このように高く、清く、聖なることを考えているときに、天は、彼らに近づく。そして、彼らは、聖霊の力を感じる。そして、これは、彼らをますます世から引き離して、彼らの故郷である天に関することに、彼らの慰めと大きな喜びとを感じさせる。神と天とへ引きつける力は、ますます強くなり、魂の救いと神に栄誉と栄光を帰すという大目的から、彼らの心を引き離すことができるものは、何もなくなるのである。(初代文集 210-213)

第13課 生ける神の印(Ⅱ)

どれが主の日であるか？

キリストが安息日を設定し、キリストとその民との間の印として安息日を守るようその民に命じられたのですから、キリストご自身が、地上の人として安息日をきよく守られたことは、驚きに値しません。「それからお育ちになったナザレに行き、安息日にいつものように会堂に入り、聖書を朗読しようとして立たれた」(ルカ 4:16)。

安息日を守る人として、安息日に礼拝堂に行くことがキリストの習慣でした。後に、イエスは、ローマの大軍がエルサレムにあふれかえることを預言し、そのような運命にあった町から逃れるようご自分の民に警告し、次のようにつけ加えられました。「あなたがたの逃げるのが、冬または安息日にならないように祈れ。」(マタイ 24:20)。

この預言が実現したのは、紀元後 70 年でした。ここでイエスは、安息日が引き続き聖なるものであり続けることを認め、この聖なる性質がご自分の死、復活、昇天後においても弱まることのないよう期待しておられることを示されました。

イエスは、ある日、パリサイ人に語っておられるときに、次のように宣言されました。「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない。それだから、人の子は、安息日にもまた、主なのである」(マルコ 2:27,28)。

そのため、もし人の子が安息日の主であるならば、安息日は主の日であるはずです。イザヤも同じことを述べています。『もし、安息日にあなたがたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならば、その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高いところに乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもってあなたを養う。』これは主の口から語られたものである。」(イザヤ 58:13,14)。

安息日はどのように守られるか？

聖書の記録によると、一日が始まり、また終わるのは日没の時です。このことは、創世記第一章の創造に関する記録において、はっきりと認められます。一日一日の創造の後に、「夕となり、また朝となった。」と宣言されています。つまり、一日の暗い時間帯が明るい時間帯の先にあるということです。これが時間の論理的かつ自然な区分です。安息日に関しても、同じことです。

「その夕から次の夕まで安息を守らなければならない。」(レビ記 23:32 下句)。

そのため、わたしたちもまた六日目の日没から安息日を開始し、七日目の夕方に安息日を終了することが要求されています。

主は、ご自分の民イスラエルに、朝と夕方に捧げ物を捧げるように教えられました。こうして、すべての家族は、毎朝毎夕、神を礼拝するために集まりました。それと同様に、安息日を守るクリスチャンは、毎日、朝夕の礼拝のために、特に聖安息日の始まりと終わりには、日没の時に共に集まります。

わたしたちは六日間の労働日にわたしたちのすべての働きを実行するように命じられています。一方、安息日は丸一日、神のみ言葉と素晴らしい創造の働きの研究、および礼拝のために別にとっておかなくてはなりません。

「六日のあいだ、働いてあなたのすべてのわざをせよ。七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。」(出エジプト記 20:9,10)。

また、興味深いことに、食事の準備もまた安息日になすべきでないことに気づきます。これは前日、すなわち「準備の日」(マルコ 15:42) と呼ばれる日になさなくてはなりません。この教訓は、特別な奇跡によってイスラエルの子らに教えられました。彼らをエジプトから導き出された後、主は彼らが荒野にいた40年の間、食物を備えて下さいました。最初の5日間は、マナは毎日、地上にありました。彼らが余分に翌日のために集めると、そのマナは腐ってしまいました。しかし、6日目の朝には二倍の量のマナが降り、そのマナは安息日が終わるまで、新鮮さに保たれたのでした。

「六日目には、彼らは二倍のパン、すなわちひとりに二オメルを集めた。そこで、会衆の長たちは皆きて、モーセに告げたが、モーセは彼らに言った、『主の語られたのはこうである、「あすは主の聖安息日で休みである。きょう、焼こうとするものを焼き、煮ようとするものを煮なさい。残ったものはみな朝までたくわえ

て保存しなさい」と。彼らはモーセの命じたように、それを朝まで保存したが、臭くならず、また虫もつかなかった。モーセは言った、『きょう、それを食べなさい。きょうは主の安息日であるから、きょうは野でそれを獲られないであろう。六日の間はそれを集めなければならない。七日目は安息日であるから、その日には無いであろう』。ところが民のうちには、七日目に出て集めようとした者があったが、獲られなかった。」(出エジプト記 16:22-27)。

真のクリスチャンは同様に、安息日のための食事を金曜日に用意すべきです。

イエスは、安息日に行うことができる種類の働きをお教えになりました。このお方は病人の世話をしたり、人や獣の命を救ったりして、それを憐れみの働きのうちに示されました。

安息日に、わたしたちは日ごとの仕事のことについて話したり、あるいは個人的な利益を思いめぐらしたりすべきではありません。その日は、娯楽をもとめて費やされるべきではありません。なぜなら、その日全体が主に捧げられるべきであり、このことは主を愛するすべての人にとって喜びだからです。「…おのが道を行わず」(イザヤ 58:13)。

主が永遠の存在であられるように、安息日も永遠のものです。新しくされた天においても地においても、あがなわれた人々は御使や諸世界の墮落していない者たちと共に、安息日に共に集まって、自分たちの創造主を礼拝します。『『新月ごとに、安息日ごとに、すべての人はわが前に来て礼拝する』と主は言われる。』(イザヤ 66:23)。

親愛なる友人の皆さん、主のご命令を受け入れ、このお方の安息日を聖なるものとして守りませんか?安息日ごとに神の民が礼拝するとき、参加しましょう。

彼を知るために

That I May Know Him



11 月

11月1日

世の楽しみを避けなさい

「世と世にあるものとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。」(ヨハネ第一2:15)

真のクリスチャンはどのような娯楽場にも入りたいとは思わない。また、神の祝福を求めることのできないような気晴らしにかかわろうなどと望みはしない。彼は映画館や玉突き場、ボーリング場にはいない。彼は陽気にワルツを踊る人と一緒にいたり、キリストを心から追い出し、人をとりこにするようないかなる娯楽にも浸ったりはしない。

このような娯楽を弁護する者にわたしたちは、ナザレのイエスの名によって、そういうことにふけることはできないと答える。……ゲッセマネに思いを馳せ、キリストがわたしたちのために耐え忍ばれた苦悩を見なさい。計り知れない苦しみの内に、ご自身の魂に全世界の罪を負って格闘された世の救い主を見なさい。「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」と祈られた主の祈りを、自分にあてはめて聞きなさい(マタイ26:39)。暗黒の時がきて、キリストは十字架の影に入られた。彼は一人で苦い杯を飲まなければならない。主が祝福と慰めを与えられた地上の子らのうち一人として、この恐ろしい暗黒に主を慰める者はいない。主は人殺しの暴徒の手に渡されるのである。疲れ、弱られた主は、裁判所から他所へと引き回される。……罪の汚れを知らなかった主は、カルバリーで犯罪人として主の命を注ぎだされる。この現実はずべての魂をその底から揺り動かすべきである。神の御子が悲しみの人となり、悩みを知る人となられたのは、わたしたちを救うためであった。……無限の犠牲がわたしたちの贖いのためになされたことをあなたが覚えているなら、舞踏会もその魅力を失うであろう。

キリストはわたしたちの犠牲として死なれただけでなく、わたしたちの模範として生きられた。主は人性において、全く、完全で、汚れなく立っておられる。クリスチャンであることはキリストのようになることである。わたしたちの全存在すなわち、魂、体、精神が主のみ姿を反映し、主の模範に似るまで、純潔にされ、高貴になり、清くならねばならない。……この働きに役立つ事柄や楽しみについては、それを追求することを恐れる必要はない。しかし、わたしたちの注意をそらし、熱心を奪うような事柄はなんであつても避けるのがわたしたちの義務である。(ビュー・アソド・ヘラルド 1882年2月28日)

決して朽ちることのない飾り

「あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りではなく、かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを、身につけるべきである。これこそ、神のみまえに、きわめて尊いものである。」(ペテロ第一 3:3, 4)

外見上の魅力は浅薄で、変わりやすい。それに頼ることはできない。キリストがご自分に従う者に命じられる飾りは決してあせることのないものである。……

もし、青年が外面を飾るのに費やす時間の半分でも魂の教養、内面の飾りに費やすならば、彼らの態度や言葉、また行動になんという相違がみられることであろう。心からキリストに従おうとする者は自分の着る衣服について良心の呵責を覚えるであろう。彼らは主から非常にはっきりと与えられた……要求に従おうと奮闘するであろう。(ユース・インストラクター 1896 年 11 月 5 日)

多くの人は注目を得ようと世と同じような服装をしている。彼らはみじめな、死ぬべき体を飾るために流行をあれこれと学んで無為に過ごすより悪いことに時間を費やしている。しかし彼らはここで、悲しい、致命的な間違いを犯している。もし彼らが救いとなる影響力を保ち、真理を支持していることを示す生活をしようとするなら、謙遜な模範であられる方に倣わなければならない。正しい行いによって、自分の信仰を示し、自分と世の間に大きな隔たりがあることを表しなさい。言葉や服装、また行動が神をあかしすべきである。そうすれば聖なる影響力がすべての者に降り注がれ、すべての者は、彼らがイエスと共にいる者であることを知るであろう。未信者は、キリスト再臨の信仰が品性に影響することを知るであろう。……

外観は心を示すものである。心が真理によって影響を受ける時、心は世に対して死んだものとなり、世に対して死んだ者は、未信者のあざけり、また侮辱によって動かされることはない。彼らは世から離れて、主のようになろうと心から願う。彼らは世の流行や習慣にならおうとはしない。神に栄光を帰し、不滅の遺産を受け継ぐという高貴な目的が、いつも彼らの前に置かれている。それに比べて世的な性質を帯びたことはすべて、影が薄くなってしまう。(レビュー・アッド・ヘラルド 1884 年 9 月 9 日)

11月3日

日毎の自己否定

「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。」(ローマ 12:1)

なぜ青年は、アダムの例から教訓を学ばないのであろうか。神の小さなテストにも耐えられなかった彼の失敗は、恐ろしい報いを招いた。そして今でも、サタンは、人の心を惑わす力を持っているので、わたしたちの前に警告のともしびがありながら、多くの人は特別なこととはしないのである。……

わたしたちが天父にささげることのできるものは、最善であったとしても非常に小さな捧げ物にすぎない。神に対するわたしたちの責任という点を考えると、わたしたちはみな食欲や感情を理性的な意志の支配の下に置くというこの上なく強い義務がある。好き嫌いが理解を誤らせ、他の何にも増して霊的感觉を曇らせてきた。サタンは、食欲の放縦を通して多くの人の知性を無感覚にし、そして、服従と聖化の道から遠く離すために、これらの無節制な者を誘惑の特別な対象物とする。有用なタラントを託されている人々が、もし、日毎の自己否定の必要性を知り勝利者となるのが何を意味するのかを知らないならば、永遠の命を失うであろう。……

多くの人は、当然持つはずの活力を半分も持っていない。彼らは、食欲の放縦と品位を下げる習慣を通してもたらされた慢性の病気になっているからである。もし青年が、ダニエルや、三人の友達のように、健康の法則を厳密に固く守るならば、知覚力がどれほど鮮明になることであろう。苦痛から解放され、どんなにたやすく義務を遂行できることであろう。彼らの霊的熱心さは、どんなに大きなものとなったことであろう。言葉と模範によって彼らはどんなに他人の祝福となることであろう。……

神はあなたに対して豊かな恵みを与えることがおできになる。わたしたちが、主の言葉にあらわされた条件に従うまでは神の約束を求める権利はない。「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければわたしはあなたがたを受け入れよう」(コリント第二 6:17)。あなたはそうするであろうか。(原稿 6 卷 1878 年)

不節制との戦い

「酒は人をあざける者とし、濃い酒は人をあばれる者とする、これに迷わされる者は無知である。」(箴言 20:1)

わたしたちはクリスチャンとして、厳格に節制を守るべきである。神を恐れる聖書的な青年ほど物事をたやすく完成させ、効果的に行うことができる人々はいない。今日の都市の青年たちは、あらゆる種類の利己主義や、健康を破壊するような放縦に対して、強く抵抗するために、堅固でしっかりした聖なる軍隊と結合すべきである。善のために彼らはなんと力になれることであろう。青年を誘惑するために音楽や、あらゆる興味を引くもので設備された娯楽場や施設に出かけることによって道徳を退廃させることから、彼らはどれほど多くの者を救うことであろうか。不節制と放蕩、そして冒涇は姉妹的關係にある。神を恐れる青年たちに、よろいやかぶとをつけて、前進させなさい。あなたの名前をすべての契約書に書きなさい。……節制の契約書にあなたの名前を書くのを拒むために、つまらない口実を設けてはならない。……

アダムとエバは、不節制な食欲のゆえにエデンを失った。わたしたちが神の楽園を得るためには、万事において節制をしなければならない。だれか酒の杯や、コップに泡立つビールを拒むのに、恥ずかしさで顔を赤らめるのだろうか。これは不名誉なことであるどころか、食欲にふけることを拒み、誘惑に抵抗することによって、彼らは神に奉仕をしているのである。天使は誘惑する者と誘惑される者の両者を見つめている。罪は女々しく、また食欲の放縦は弱く臆病で卑しいことである。その一方で、食欲の自制は、尊ばれるのである。天にいる最高の知的存在者たちは、誘惑する者と誘惑される者の間で行われている戦いを見守っている。そして誘惑されている者が誘惑に背を向け、イエスの力によって勝利者となるならば、天使たちは喜ぶ。そしてサタンは戦いに負けたのである。……誘惑に会われた荒野でのキリストの大きな戦いが食欲の点にあったことを理解する者は皆、不節制を招くようなことはわずかであっても避けるであろう。

イエスはわたしたちのために苦しい断食に耐えられた。そして、あらゆる試みにおいてサタンに勝利された。それは、主が身代わり、また保証人として得られたこの大きな勝利によって、人が自分にもたらされた力を通して自分のために自分で勝利できるようにするためであった。(レビュ・アンド・ヘラルド 1887年4月19日)

11月5日

クリスチャンの競技

「あなたがたは知らないのか。競技場で走る者は、みな走りはするが、賞を得る者は一人だけである。あなたがたも、賞を得るように走りなさい。しかし、すべて競技する者は、何事にも節制する。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのである。」(コリント第一 9:24, 25)

ここでパウロは、自分の利己的な放縦を擁護し、自己否定と厳格な節制の習慣によって勝利する立場に自分をおくことを否定する自称クリスチャンの弱々しい努力を辱めるために鋭い対照を描いている。誰でも公の競技に参加する者は、勝利した時に受ける受賞の希望によって元気づけられ、また興奮する。そのようにクリスチャンの前にも、競技の終わりまで忠実であった者に対する報いとしての賞が置かれている。……みな競技場で走りはするが、賞を得る者は一人だけである。朽ちる月桂樹の冠のために競技した他の者は、どんなに徹底的な準備をし、彼らの努力が熱心で断固としたものであっても、失敗に終わる運命であった。しかし、クリスチャンの競技においてはそうではない。……最も強い聖徒と同様に最も弱い聖徒も、キリストのために困難と損失を甘受し、心より熱心であるならば、不死の冠を得ることができる。……

もし、わたしたちが、不自然な食欲を起こし、食欲を欲しいままにするならば、自然の法則を破るのであり、その結果、肉体的にも精神的にもそして道徳的にも健康状態は弱まる。その時、わたしたちは、もし、わたしたちが自然の法則に忠実であったならばすることができたはずのたゆまない精力的で希望に満ちた努力をするには不適格なものになっているのである。もしわたしたちが、体の一器官でも損なうならば、わたしたちは、主にお返しすべき奉仕を神から盗んだことになる。(レビュー・アソシエイト 1881年10月18日)

使徒は、古代競技で勝利を確かなものにするために要求された注意深さと勤勉さにわたしたちの注意を向けさせる。彼は、クリスチャン競技のスタートに立ったすべての者に、競技の終わりまで忠実な者には、義の審判者が報いとして義の冠を与えてくださることを述べて彼らを励まし、勝利を確実にするために勤勉であるように勧めている。この冠は、すぐ枯れてしまう花輪ではなく、主の再臨を待ち望んで、クリスチャン競技をなし終えた者に与えられる永遠の命という栄光の冠である。(同上)

信者の模範

「すべての人を救う神の恵みが現れた。そして、わたしたちを導き、不信心とこの世の情欲とを捨てて、慎み深く、正しく、信心深くこの世で生活し」(テトス 2:11, 12)

もしわたしたちが、永遠の命を受け継ごうと思うならば、わたしたちがしなければならない大きな仕事がある。わたしたちは神に似ていないことや世的欲望を退け、義の生活を送るべきである。……イエス以外に、わたしたちのための救いはない。なぜならば、神の子となる力を受けるのは、イエスを信じる信仰によってだからである。しかし、それは、単なる一時的な信仰ではなく、キリストのわざを行う信仰である。……生きた信仰は、神のみ事業に対する犠牲と献身の精神を示すことによって、おのずと表れる。信仰を持った者は、インマヌエルの君の旗の下に立ち暗黒の力と戦って勝利する。その司令官が命じられることはなんでも行う用意ができています。一人一人が、「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範」になるように勧められている(テモテ第一 4:12)。なぜなら、わたしたちはキリストの品性をあらわし、その精神をはっきり示しつつ、この現代の悪の世界において「慎み深く、正しく、信心深く」生きなければならないからである。……

イエスにつながっている者は、万物を造られ、支えておられる方と一致している。彼らは、世が与えることも、取り去ることもできない力を持っている。しかし、偉大で気高い特権が、彼らに与えられていても彼らは、その祝福を単純に喜んでばかりいるべきではない。神の多種多様な恵みの家令として彼らは、他人に対して祝福となるべきである。彼らは、「多く与えられたものからは多く求められるのである」(ルカ 12:48)。現代の真理を受けたすべての者に、重い責任がかかっている。彼らは、他の人を神のみ言葉の光に引き寄せられるように影響を及ぼすべきである。……わたしたちは兄弟の番人である。……

もしわたしたちが、イエスの真の信者であるならば、わたしたちは、栄光から光線を集め、わたしたちのまわりにいる人々の暗い道に光を放つであろう。わたしたちは、救い主の恵み深いご品性をあらわし、多くの人が、わたしたちの影響によって、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」に引き寄せられるであろう(ヨハネ 1:29)。(ビュー・アンド・ハルド 1888年3月6日)

11月7日

神の特別な民

「このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない。」(テトス 2:14)

神の民を普通の宗教団体からはっきり区別するものは、その告白ではなく、彼らの模範的な品性と無我の愛の原則である。心に及ぼす神の御霊の力強い、清めの感化力は、言葉や行状に表れて、彼らを世から分離し、彼らを神の特別な民としてはっきりと示す。キリストに従う者の品性と性質は、その主人のようになる。主は、手本であり、クリスチャンがまねるために与えられた聖にして完全な模範である。……

義人に求められる自己否定や謙遜、そして節制は、……この墮落した時代に住む人々の度を越えた健康を破壊する習慣と対照をなしている。健康改革は、手が体に結合しているように第三天使のメッセージに密接につながっていることを神は示してこられた。そして、この重要な事柄をなおざりにすることほど、肉体的、道徳的墮落となる大きな原因は他にない。……衣食に関する道徳上の義務を犯すものは、だれでも永遠の事柄に関する神のご要求を犯す道を備えている。わたしたちのからだはわたしたちのものではない。神は、わたしたちに与えられた住まいを良く管理するように求めておられる。それは、わたしたちのからだを生ける供え物、聖であって受け入れられるものとして、神に差し出すことができるためである。わたしたちのからだは、それを造られた主のものである。主がわたしたちに与えられた住まいを朽ちさせないように保つ最上の方法に関して知的になる義務を課されている。もしわたしたちが世と同調するために、自己満足や食欲の放縦によって、また健康を害する流行にならって衣服を着けることによって、からだを弱くするならば、わたしたちは神の敵となる。……

神は、わたしたちに与えられた恵みに従って、わたしたちに要求なさる。……わたしたちが責任を果たすためには、聖なるきよい真理の秩序と進歩によってわたしたちのために備えられた高い地に立たなければならない。(レビュー・アンド・ペアルド 1886年5月18日)

思い切って違う者となちなさい

「それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪惡な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。」(ピリピ 2:15)

すべての者はキリストのために、また自分の魂のために世とその習慣や虚栄や、また流行に順応することを避けなさい。神の聖なる戒めを曖昧にするような人間の戒めに気をつけなさい。快楽を愛する者は、満足することがなく、いつも社交ダンスの場や劇場や快楽の集まりでの興奮を求める。永遠に備えるために神がわたしたちに与えてくださった時間を、何千もの人が小説を読みふけることによって過ごしている。神の与えられた知性は悪用され、神のみ言葉はおろそかにされ、心と魂は、欠点や過ちまた習慣や行為と戦うために必要な道徳的力を奪われてしまい、こうしてキリストの来臨を喜ぶのにふさわしくないものとなる。

まじめに、そして真剣な気持ちで下記の質問をしなさい。「わたしの魂はどうであろうか。わたしは習慣と行為によって救い主に敵対して働いてはいないだろうか。わたしはキリストに栄光を帰しているであろうか。わたしはイエスのために非難を喜んで受けることを、不従順で曲がったこの時代の人々に示しているであろうか。」と問いなさい。……キリストに従う者であると告白する者は目標を高くし、神聖さの標準に到達するであろうか。通俗で安っぽい自称クリスチャンよりは、世俗の人のほうがましである。思い切って世の中から出て分離しなさい。あなたはだれよりもキリストを愛しており、世の富のために不従順であるよりは、迫害があっても義を愛し、それだけを追い求めなさい。主イエス・キリストにより頼んで神聖で完全に服従することは、しっかりとした信仰と福音の望みを持つように魂を力づける。

イエスは「わたしから離れてはあなたがたは何一つできないからである」と言われる(ヨハネ 15:5)。キリストとの結合が罪に勝利する唯一の方法である。キリストにあって生き、キリストから離れず、キリストに支えられ、キリストから栄養を得ているなら、わたしたちはキリストの姿にならって、実を結ぶ。わたしたちは主にあって生き、そして動く。わたしたちは主と一つ、父と一つである。キリストのみ名は、神を信じる子にあって栄光を帰せられる。これが聖書の宗教である。(手紙 82, 1895 年)

11月9日

限らない特権

「悪しき者のはかりごとに歩まず、罪びとの道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。」(詩編 1:1)

主の祝福を持つ者は、非常に恵まれる。……だから神を恐れない者をあなたの友として選ばないように注意しなさい。なぜなら彼らはあなたが神を不快にし、主の祝福をあなたから奪うようなことをあなたがするように影響を与えるからである。……

なんらかの方法で悪いことをするように勧める者に、自分の心と思いを打ち明ける者は、神を敬わない者の勧告に従って歩んでいるのである。……彼らは罪人の道に立っている。……そして次の一步で彼らは自分が無頓着であざける者の座に座っているのに気付くのである。……憐れみと愛と平安のメッセージはあざけられる。このような人たちと交わる者は、彼らと同じように神の憐れみを軽蔑する者になる。神を敬わない一人の青年の影響がどれほど遠くまで及ぶのを知るならば驚くであろう。彼はサタンの手にあってどれほどの悪のための力となるか、またどれほど彼の勧告が心にとめられ、どれほど多くの悲哀と悲しみ、また悩みのもとをもたらすことか。……

神の子供たちに授けられた特権には限りがない。すなわち天と墮落していない世界の宇宙の隅から隅まで、すべてのものに崇拜されまた辱で讃美されているイエス・キリストと連なり、また神の子供となり神の名を持ち、王の家族の一員となり、インマヌエルの君、王の王、主の主の旗のもとに立つことがそれである。主の言葉は、最高の知性を持つ者たちによって守られる。……

イエスのためになされる最も低い奉仕も人間が喜ぶことのできる最大の誉れである。清く聖なる天使も主の言葉に従う。わたしたちは欺かれ、誘われてサタンに仕える者になってよいだろうか。主のご要求に対し、服従を拒んでよいだろうか。「このような人は主のおきてをよろこび、昼も夜もそのおきてを思う。このような人は流れのほとりに植えられた木の時が来ると実を結び、その葉もしばまないように、そのなすところは皆栄える」という言葉は、わたしたち一人一人について言われているのではないか。(ユース・インストラクター 1886 年 10 月 20 日)

イエスの幸福な歩み

「エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなった。」(創世記 5:24)

エノクは道德の力が非常に弱くなった墮落した時代に生きた。汚れが彼のまわりに満ちていた。けれど、彼は神と共に歩いた。彼は、自分の心を献身するように、すなわち純潔で清いことを考えるように教育した。彼は、信心深く神聖な事柄について話した。彼は、神の友となった。彼は神と共に歩み、神の勧告を受け入れた。彼は、わたしたちと同じように誘惑と戦わなければならなかった。彼のまわりの社会は、今日のわたしたちのまわりの社会同様に義に対しては好意的ではなかった。彼が、呼吸していた大気は、わたしたちの時代と同じように罪と墮落で汚れていた。けれども彼は、彼が生きた時代に行き渡っていた罪に汚されなかった。だからわたしたちも忠実なエノクがそうであったように、清く汚されないことができる。(レビュ・アソド・ハルド 1881年8月23日)

わたしたちは、悪が広く行き渡っている時代に住んでいる。最後の時代の危険が、わたしたちのまわりにたちこめている。そして、罪が充滿しているので人々の愛は冷ややかになっている。……時の短いことが、わたしたちに義を求め、キリストを友とする動機として強調されている。しかし、これは、主な動機であってはならない。利己主義のにおいがする。わたしたちを恐れから正しい行動をさせるためにわたしたちの前に神の日の恐怖をさし示す必要があるだろうか。そうあるべきではない。イエスは引き付ける方である。彼は、愛と憐れみと同情に満ちている。主は、わたしたちの友となって人生の悪路をわたしたちと共に歩もうといってくださる。主はあなたに言われる。わたしは主、あなたの神である。わたしと共に歩みなさい。そうすればわたしはあなたの道に光を満す。天の王イエスは、自分の重荷や弱さ、また心労をもって、ご自分のところに来るものをご自身との交わりにまで高めようと言われる。主は彼らをご自分の愛しい子供とされる。そして、ついには地上の王国よりも、もっと価値のある嗣業、また最もほめそやされた地上の君主の額を飾った冠よりもっと立派な栄光の冠を彼らに与えられる。……

わたしたちが生きている限り、日々、イエスと共に静かで緊密な、また幸福な歩みをするのはわたしたちの特権である。(同上8月2日)

今、損益を考える

「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう。 人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。 また、人はどんな代価を払って、その命を買いもどすことができようか。」(マルコ 8:35-37)

主イエスは、人間の心を夢中にする魔力を破るために声を上げ、次のような重大な質問をされる。「人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、何の得になろうか」。……

病氣と死がこの世に存在している。そして、わたしたちは、自分の個人的な恵みの時がいつ終わるかをいかに知らないことだろう。……もし今、会計簿の提出を求められたなら、神が与えてくださった恵みの時を自分のことのためにばかり使ったために、なんと多くの人が悲しみと後悔と良心の呵責をもってそれを提出することであろう。魂の永遠に対する関心は、重要でもないことのために恐ろしいほどおろそかにされてきた。心は、丁度サタンが計画したように、利己的な関心と何の重要性もない事柄で忙しく、全く天国のためになんの準備もすることなく時間は永久に過ぎてしまう。

人の魂が失われることを何に比較できるだろうか。永遠の命という宝を得るか、あるいは、神と神の義を自分の第一のまた唯一の関心とすることを怠ってすべてのものを失うかということはすべての魂が自分のために決定しなければならない事柄である。世の救い主であられるイエスは、主にではなく自分自身に仕えながら、クリスチャンであると公言している多くの人々を、悲しみをもってご覧になっている。彼らは二心のない完全な愛をもって主に仕える忠実な者を待ち受けている豊かな報いに対して、主が注意を呼び掛けておられるにもかかわらず、永遠の現実について、ほとんど考えない。主は、永遠の現実を、人の見える範囲のうちに置かれる。主は、今、忠実で従順にキリストに従う者になるということが損か得か事前に考えてみるように彼らに命じられる。そして「あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない」と言われる(マタイ 6:24)。

主は、個人個人に、この世で自分の貴重な時間を使って、善い行いにおいて実り多い日々となるように、自分の責任に気づくことを望んでおられる。神が与えてくださった能力を永遠の結果を心にとめて用いるということが、やがて死ぬべき人間の唯一の価値のある目的である。(原稿 45, 1890 年)

偶像をすべて捨てなさい

「するとイエスは彼に言われた、『サタンよ、退け。主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある。』（マタイ 4:10）

「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」（出エジプト 20:3）。……この第一条の戒めが破られるのは、神の存在を否定することや、木や石の偶像に頭を下げることだけによるのではない。キリストに従っていると告白する多くの者によって、この原則が犯されている。そして、天の主は、心の中で、神のみが占めるべきである場所をふさぐいかなるものをも抱き続けている者をご自分の子供とは、お認めにならない。多くの者は食欲を満足させることに支配されている。また他の者は、衣服や世への愛着が、心の中で第一の場所を占めている。……

神は、この人生において愛情を注ぐ対象をたくさん与えてくださった。しかし、それ自体は律法にかなったものでも、度を越して愛情を注ぐならば、偶像礼拝者となる。……わたしたちの愛情を神から引き離したり、永遠の事柄についてわたしたちの関心をそらすものは何でも偶像である。神によって彼らに与えられたこの大切な時間、すなわち無限の価をもって買い取られた時間を自分の家を見せびらかすために飾ったり、世の中の流行や、しきたりに従うために費やす者は、自分の魂から霊的食物を奪い取っているだけでなく、神に支払われるべきものを神に返していないのである。このように利己的な欲望の満足のために費やされた時間は、神のみ言葉の知識を得るために、またわたしたちの創造主に対する知的な奉仕をすることのできる才能を培うために使われたはずのものである。……神は、二心の者には何もお与えにならない。わたしたちの注意が世のことに奪われてしまうなら、神は最高の支配権を持つことがおできにならない。もしこれによって神に対するわたしたちの献身が減じるなら、主の御目には偶像なのである。……

「神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである」（ヨハネ 4:24）。わたしたちの心が、詩や讃美や、霊的な歌だけではなく、生活においてもわたしたちの造り主をたたえるようになるならば、天との交わりの中で生活しているのである。……その時、心の中でも、また家庭においても、個人的にも公の礼拝と同様に、感謝が生じるであろう。これが、神に対する真の礼拝を形づくるのである。（エス・インストラクター 1896 年 12 月 31 日）

11月13日

人間という織物の糸

「それはちょうど、旅に立つ人が家を出るに当り、その僕たちに、それぞれ仕事を割り当てて責任をもたせ、門番には目をさましておれと、命じるようなものである。」(マルコ 13:34)

神が荒野に幕屋を建てるように命令されたとき、各人に各々の働きが割り当てられた。……幕屋を建てたり、たたんだり、また、荒野で場所から場所へと移ったりする時に、各人がなすべき立場がはっきり示された。

キリストは、百万を越える人々の目には見えない将軍であられた。そこには偶像や無秩序な動きはなかった。義務の立場において秩序と迅速、また的確さが要求された。これは、神の大いなる働きにおいて役割を果たすために神が選ばれた教会と人々にとって、重要な教訓である。誰も他の人の働きをすることを要求されてはいない。各々が、自分に割り当てられた仕事を正確にかつ完全に行うべきである。荒野の旅路におけるあの偉大な教会の運営は、地上の歴史の終わりまで、わたしたちが天のカナンの地に入るまでの教会の在り方を象徴している。……

主はあらゆる種類の熟練した働き人を必要としておられる。「そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ」た(エペソ 4:11,12)。……主のぶどう園においてさまざまな働きに携わっている一人一人の働き人は、働きの一部である自分にゆだねられた部分だけでなく、全体と関連させて物事を見ることがするために真理を通して清められた頭脳と心を持たねばならない。働き人が神に献身する時、彼らは目に見えない聖なる偉大な働き人であられる方のもとで働いている彼らの兄弟たちに神の愛をあらわすであろう。「わたしたちは神の同労者である」(コリント第一 3:9)。……

わたしたちは人間という大きな織物の各部分である。織物の模様を織り出し、完全な全体を作り出す縦糸、横糸である。……神の計画通りに作り上げる神の糸でありなさい。あなたは、決して思いのままにはならない。(手紙 86a, 1893 年)

神の賜物の利用

「すなわち、それぞれの能力に応じて、ある者には五タラント、ある者には二タラント、ある者には一タラントを与えて、旅に出た。」(マタイ 25:15)

タラントの譬えは、……判断力のあるすべての男女子供に、個人的にあてはまるものである。あなたの義務と責任は、神があなたに与えられたタラントに比例する。……

家の主人がその僕を呼んだ時、彼はすべての者にその人のなすべき仕事を与えた。神の全家族は、自分たちの主の財産を用いる責任を与えられている。最も低い者、取るに足りない者から、最も偉大で、最も高い地位を持っているどの個人も彼は能力を与えられた道徳的代理人であり、神に対して責任がある。霊的、知的、肉体的能力、影響力、社会的地位、財産、愛情、同情、これらすべては、自分の主人であられる方のために用いられるべき大切なタラントである。……実業家は自分の誠実さをもって、自分の主人であられる方に栄光を帰す方法で仕事をしなさい。自分がするすべての事柄に自分の宗教を持ち込み、キリストの精神を人々にあらわしなさい。技術者はユダヤの町々で人生の謙遜な歩みのうちにこつこつと働かれた主を代表して勤勉で忠実な者となりなさい。キリストの名を名乗る者は、自分の善行を見た人々が、自分の創造主であり救い主である方をあがめるように働きなさい。……

すぐれたタラントで祝福されている者は、彼らほどタラントを与えられていない人々の奉仕の価値を軽視すべきではない。最も小さい信頼でもそれは神からの信頼である。神の祝福を受けて勤勉に用いられる一タラントは二倍にされ、キリストの奉仕に使われた二タラントは、四タラントに増加する。このようにして最も慎ましい器も有力で有用な者に成長する。まじめな目的と無私の努力は、天の神にすべて認められ、評価して受け入れられる。……神だけが彼らの奉仕の価値を評価することができ、造り主の栄光のために働く者が広い範囲に及ぼす影響力をご覧になることができる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1888年5月1日)

11月15日

小事の宗教

「主人は彼に言った、『良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』」(マタイ 25:23)

キリストは「小事に忠実な人は、大事にも忠実である」と言われた。(ルカ 16:10)。ある人々は小さい事柄にはそれほど厳密になる必要はないと考えている。しかし、これはサタンの欺瞞である。

利己主義はすべての不公平と誠実さの欠如の根である。……真理を信じていると公言する青年の多くには、虚栄心や自尊心、また浪費や不注意がみられる。これらは彼らが無頓着で気高く高められたこの世の生涯に不適格なものとし、その先の将来の生涯にふさわしくないものとしている。……すべての者が自分に与えられた時間を注意深く活用しているわけではない。自分の時間を浪費したり、最善に利用しない者は神のものを奪っているのである。ある者は……金銭に不注意で、また無頓着であり、時間を気にしない者に非常に好意的な意見を持つが、神がすべてこれらのことを彼らの本当の性格、すなわち神の報復を受ける詐欺的なものだとみなされる。

時間やタラント、また技術は用いられ、最善の方法で活かされるべきである。……だれも、みなあなたも無限な方の目が自分に注がれているかのように原則に対して真実でありなさい。あなたがた、青年男女は、熱心な努力と断固とした意志を神のみ恵みと結合させることによって、放縦への傾向に抵抗するために、あなたが望んでいるような者になることができる。……

キリストは完全な模範を人間に与えられた。しかし、彼らが自由な計画と呼ぶものに共鳴し、小事に不注意な者は、まもなく、唯一の真の手本であるキリストの模範からひどく逸脱していることを示すであろう。青年男女よ、もっとキリストのご生涯を身近に、祈りをもって学び、主のご生涯をあなたの基準、またあなたの標準にしようではないか。(原稿 6,1878 年)

実際の宗教は日常生活の慎ましい勤めにも持ち込まなければならない。そして、これらの務めを実行することによって、あなたは裁きに立ちうる品性を築いているのである。あなたの置かれた立場が何であろうと、あなたの務めが何であろうとも、全天があなたの働きを見守っていることを悟って、それらを気高く忠実に行いなさい。(ユース・インストラクター 1897 年 1 月 28 日)

報いの来る日

「おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう。」(マタイ 25:29)

もしタラントがうまく利用されるならば、その結果としてタラントは増大する。「持っている人は与えられる」。もし天が与えた賜物が、神のゆだねられた資本として評価されず利用されないならば、すなわち世間的なことで、利己的なことに没頭するならばこれらの人を祝福できる力は減少する。そして天の神は、これらの尊い賜物すべての源として求められず、あがめられもしないので、神は辱められる。そして神は賜物の供給を絶たれるのである。わたしたちの主であり、救い主であられるイエス・キリストの知識を増し、成長するために、人間側の努力としてわたしたちは肉体的、知的力を使わなければならない。(レ・ユー・ア・ド・ヘルド 1887年4月12日)

自分のタラントを貯えてさびさせ、利用せず改善もしない者は、どんな方法にしてもそのような行動によって責任を逃れられると考えてはならない。なぜなら神は、わたしたちがキリストと共にくびきを負い、主の重荷を担い、日々主の柔和と謙遜を学んでいけばなしうる善行に対して責任を負わせておられるからである。利息が埋もれたタラントの上にたまり続けるなら、その責任は減少するどころか、タラントの埋蔵が責任を増大させ、強める。

報いの来る日はまさにわ目前にあるという厳粛な事実を考えなさい。わたしたちは日々、永遠の運命がどうなるかを決定しているのである。主人であられる方は、ご自分がゆだねたタラントを個人的に扱った一人一人を検査される。ああ、報いの来る厳粛な日、その日多くの者の顔は青ざめるであろう。その日「あなたがばかりで量られて、その量の足りないことがあらわれた」という言葉が多くの者に語られるであろう。会計簿がその大いなる日に開かれた時、「不足」していることがわかるということは、恐ろしいことである。……その日になされる決定によって、すべての魂の将来、永遠の事柄が定まる。わたしたちは、言い尽くせない喜びか、いいようのない苦痛と悲しみを持つかである。……イエスは、すべての真の働き人に報いようとしておられる。忠実になされたすべての義務は、主の祝福を受ける。そして主は、「よくやった」という祝福を仰せになる。(原稿 13, 1895 年)

11月17日

わたしたちの賜物を働きに

「しかし、ひとりびとり神からそれぞれの賜物をいただいていて、ある人はこうしており、他の人はそうしている。」(コリント第一 7:7)

神はご自分の家令には、金銭以上のものを与えられる。あなたに与えられているタラントは、賜物である。あなたは、神の賜物をどのように言葉や、やさしい同情で、伝えているだろうか。……真理の知識もタラントである。あなたの真実で忠実な言葉によって知識の光を与えられるはずの多くの魂が暗黒の中にいる。神から離れたために同情に飢えている人々がいる。あなたの同情は彼らを助けることができる。主はご自分の聖霊に導かれたあなたの言葉を必要とされている。……

すべてのクリスチャンがなすべき最初の仕事はこの上なく熱心な祈りをもって聖書を調べることである。そうすれば彼らは、愛によって働く信仰を持ち、利己主義という縄目から魂を清める信仰を持つことができる。真理が心に受け入れられるなら、すべての力が、神の意志に従うようになって、よいパン種のように働く。そうする時、あなたは、太陽のように輝くことができる。……

すべての生まれながらの賜物は、尊い天賦の才能として潔められるべきである。それらは神にささげられなければならない。そうすればそれらは主のために奉仕することができる。すべての社会的な利点もタラントである。……それらは、自己快楽や、あるいは、自己満足のために使われるべきではない。正しい模範という賜物は、偉大な事柄である。しかし多くの魂は、マラリヤのような雰囲気を取りにもたらず。……

話すことや知識、また同情や愛という賜物は、キリストの知識を伝達する。これらの賜物はすべて神にささげられるべきである。主はそれらを必要とされ、それらを要求しておられる。すべての人は、自分のタラントを神に新たに捧げるために、自分自身の魂と他の人の魂を備えるための役割を果たすべきである。すべての魂と、すべての賜物は、神に捧げるものでなければならない。すべての者は、魂を救う働きにおい神と協力すべきである。あなたが持っているタラントは、あなたがキリストの有用な共労者となるために神からあなたに与えられたものである。同情に飢え渴き、神が、助けを彼らに与えるようにとあなたに与えて下さった助けと援助を求めて、弱り果てている心がある。(レビュー・アソッド・ヘラルド 補遺 1898 年 6 月 21 日)

義の武器

「また、あなたがたの肢体を不義の武器として罪にささげてはならない。むしろ、死人の中から生かされた者として、自分自身を神にささげ、自分の肢体を義の武器として神にささげるがよい。」(ローマ 6:13)

主はあなたが使うためにタラントを与えて下さった。主が望まれるようにタラントを使うことによって、才能も知恵も、そして主の働きを理解するためのはっきりした霊的視力も増大する。あなたの心と目を覚ましていなければならない。あなたの耳は、主の最も細いささやきの声を聞くために開かれていなければならない。主が造られたあなたの膝は、祈りの時にひざまずくために用いられる。主はあなたの力である。信仰によって見えないお方をつかみなさい。主の戒めの道に従順に歩むために、福音の備えをしてあなたの足に靴を履きなさい。あなたの舌と声は、主のご生涯と教訓、また死と復活、そして昇天を伝えるために神から与えられたタラントである。あなたの肉体の力は「そう書かれている」という武器をもって敵に勝利するために、戦場で信仰の良い戦いを戦って、主に捧げられるべきである。あなたの同情心や活動力は神に属している。それらを用いて、あなたの救い主に栄光を帰しなさい。……

あなたは一人ではないという思いを、養いなさい。あなたの歩みはすべて、主が見ておられる。あなたは夜も眠ることのない天使に取り囲まれている。……天使は、ヤコブに仕えたように、主の謙遜で悔い改めた者すべてに確かに仕えて下さる。……

高く、より高く手を伸ばして、信仰の糸を次々とつかみなさい。神とあわれなしいたげられた者を愛して歩き、また働きなさい。そうすれば主は、あなたの助けとなられる。「また言われた、『よくよくあなたがたに言うておく。天が開けて、神の御使たちが人の子の上に上り下りするのを、あなたがたは見るであろう。』」(ヨハネ 1:51)。尊い救い主であり神の御子であられるイエスは、天と地とを結びつけるはしごである。主の神性は、神のみ座をつかみ、主の人性は地に達している。主の人性のみ腕は、全人類を囲んでいる。イエス・キリストによって愛と慰め、また譴責と光における天使の奉仕はわたしたちに達している。主に感謝しよう。主は恵み深く、そのあわれみはとこしえに絶えることはない。(手紙 152, 1896年)

主のご用のために

「大きな家には、金や銀の器ばかりではなく、木や土の器もあり、そして、あるものは尊いことに用いられ、あるものは卑しいことに用いられる。もし人が卑しいものを取り去って自分をきよめるなら、彼は尊いきよめられた器となって、主人に役立つものとなり、すべての良いわざに間に合うようになる。」(テモテ第二 2:20, 21)

主はすべての人に、なすべき仕事を与えておられる。主は人の能力に応じて与えておられるので、委託されたものは人の才能に比例している。……

だれも主のために用いるタラントが少ないと嘆いてはならない。……他の人が何をしようとか関係なく、ゆるぎない忍耐力を持って働き、あなたの最善を尽くしなさい。「だから、わたしたちひとりびとりは、神に対して自分の言いひらきをすべきである」(ローマ 14:12)。決して、あなたは「ああ、わたしの仕事は何という大きな仕事だ。この仕事やあの仕事だったら良かったのに」と思っても、言ってもいけない。あなたのいるところで、あなたの義務を行いなさい。あなたの働きが神のみ前に最も価値のあるその場所であなたに委ねられた賜物を用いて、最善を尽くしなさい。……他人のタラントを妬んではならない。なぜならば、妬んだからといって善を行い大きな働きをするためにあなたの能力が増すわけではないからである。あなたの賜物を柔和に謙遜に、より頼む信仰を持って用い、報いを受ける日まで続けなさい。そうすれば、悲しみや、恥を受けないですむであろう。……

今日の義務を忠実に行わず、何か他の大きな奉仕をしようと熱望してはならない。平凡な責任を果たし、神があなたに与えて下さった力と恵みをすべて正しく用いるためにあなたの責任が厳粛なものであることを考えて、慎ましいタラントを用いなさい。神は、最も高められた者にも、最も低い者にも同じように求められる。一人一人は、キリストの賜物のものさしにしたがって快くてきばきと定められた働きをしなければならない。……神の教会は違った才能の人々から出来上がっている。色々な大きさの器のように、わたしたちは、主の家に置かれる。しかし、小さな器には大きな器に入る量を求められることはない。すべての器は、その能力に従って満たされるだけのものを求められる。あなたの道にある義務を忠実に果たすならば、あなたは、受け入れられる僕であり、尊重される器となる。(ビュー・アンド・ヘルド 1888 年 5 月 1 日)

あなたがいるところで働きなさい

「そして、その人たちに言った、『あなたがたも、ぶどう園に行きなさい。相当な賃銀を払うから』。そこで、彼らは出かけて行った。」(マタイ 20:4, 5)

収穫の畑に入ろうとしている人々、そしてこの世の報いを求めない働き人になる人々がいるに違いない。次の世において彼らは豊かな報いを受けるであろう。自分たちのタラントを使わないでさびつかせている男女がいる。……彼らは、最も尊い仕事をするのができ、彼らがその丁度いるところで、その仕事を受け入れ、最善を尽くして働くために恵みに富み、能力を成長させることができる人たちなのである。彼らは、個人個人すなわち彼らの隣人たちを選び出して彼らに個人的な働きをすることができる。……

主はわたしたちに委ねられたタラントをわたしたちがどのように使ったかを調べられる。主は、すべての魂が神と共に働く共労者として、心からの奉仕ができるように、主ご自身の血と、自己否定、また犠牲と苦難を払われたのである。すべての人が、委ねられたタラントを賜物として賢く用いることが、神に対する責任であると感じさえしたなら、なんとという収穫がイエス・キリストを通して神にもたらされることであろう。一つのタラントは用いることによって、増大されるのである。最も低い賜物や最もつましい奉仕と思えるものも、大きなタラントを持つ者には触れることのできない精神にふれ、そして心に感化を与えることができる。

働くために最も良い時は、今、今、今である。個人訪問には大きな価値がある。イエス・キリストに対する愛と人間の魂に対する愛によって、真理がすべての家庭に伝えられ、あなたが入れてもらえる家庭の暖炉のそばでその真理が語られなければならない。……聖霊が働き人であることを考えなさい。神のために働く人間代理人は一人で働いているのではない。……

忍耐と優しさ、また同情と、祈りそして愛を持って働く働きは説教以上のことをするであろう。罪の呪いから世を救うためにご自身の命を与えられた主イエスは、わたしたちの目がまだ見たこともないような偉大なことを計画されている。聖霊は、通路として働く者を持っておられる。……サタンはいつも勝利するわけではない。器が神の御霊を受ける準備が出来さえすれば、すぐ神の御霊は教会に注がれるであろう。(手紙 171, 1897 年)

11月21日

「小事に忠実」

「小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして、小事に不忠実な人は大事にも不忠実である。」(ルカ 16:10)

神への活動的な奉仕は、人生の平凡な務めに、それがどれほど些細な仕事であっても、つながっている。わたしたちは神が置かれるその場所で神に仕えるべきである。わたしたちをそれぞれ異なった場所に配置するのは神であって、わたしたち自身ではない。恐らく家庭生活における奉仕は、しばらくの間のこともしれない。わたしたちが主のために最善の奉仕をすることができる準備を、その時受けるのである。

主は、品性建設に従事しているわたしたちの素質や特質がどのようなものであるかを知るために試し、また練っておられる。もしわたしたちが日ごとの細かい義務に無頓着で無関心であり、投げやりで不注意であるならば、わたしたちは決して神のために他のどのような奉仕にも適した者には、ならないであろう。……小事に不忠実な人はもっと高い地位で義務を担い、もっと大きい責任を与えられる時、必ずこの不忠実を繰り返すであろう。神への奉仕はでたらめな方法でなされるに違いない。……

小さなことの重要さは、それが小さいために過小評価されている。しかし、良きにつけ悪しきにつけ小さなことの影響は大きいのである。それらのものは、すべての人の生活を実際的によく訓練するのである。それらのものは神のために用いるようにゆだねられたわたしたちのすべての才能の潔めにおいて魂の訓練の一部となる。義務をなす時の小事に対する忠実な奉仕は、神の奉仕に携わる働き人をよりいっそうキリストに似た者とする。

わたしたちの救い主は、全人格を完成させる救い主である。主はその人格の一部分だけの神ではない。キリストの恵みは、人の全人格を訓練するために働く。主は、すべてをお造りになった。そして、すべてを贖われた。主は神のご性質にあずかるものである魂と同様に、精神と力と身体をお造りになった。そして、それらのすべては主が買い取られた主の財産である。精神と心、また魂と力すべてをもって、主に仕えなければならない。その時主は、その聖徒たちのなすどんなありふれた、一時的な事柄であっても、それによってあがめられるのである。彼らの上に「主に聖なる者」という名が記されるのである。(ユース・インストラクター 1898年4月14日)

怠け者に場所はない

「主の使は言った、『メロズをのろえ、激しくその民をのろえ、彼らはきて主を助けず、主を助けて勇士を攻めなかったからである』。」(士師記 5:23)

神に連なっているすべての者が、前に出て自分の旗を示す時は今ではなかろうか。助けが必要とされている時、男女は尻ごみし、関心も、熱心な努力も示さないでよいものだろうか。車が、泥にはまって動けなくなった時こそ皆が自動車に肩を当て、押すべきである。後に立って命令だけしていたり、車を押そうとしている者を責めたり、自分の方法や、自分の考えに従っていないからといって、彼らのしていることを批判するべきではない。……だれでも、全力を尽くして、重荷を動かすのに、自分にできる最善を尽くしなさい。

もし、クリスチャンであると主張するある人たちが互いにしているように、主が、わたしたちを扱われるならば、わたしたちは、苦しい、困難な経験をするであろう。人々が、他人を見、そして、お互い同志であっているように、主が、利己的な者、過ちを犯した者、ねじけた者をご覧になられたならば、どんなことが、わたしたちに起こることだろうか。しかし、主が、人間であられないことをわたしは喜ぶ。主は、わたしたちのねじけた道、利己心、主からの分離、品性の欠点を我慢してくださり、主のみ前でわたしたちが正しい立場に立てるようにと、憐れみと励まし、また警告と譴責、そして、矯正のメッセージを次々と送って、わたしたちに知らせようとして下さる。こうしてわたしたちは、主の愛と主の保護、またわたしたちの上に留まる主の祝福をいただくことができるためである。……

わたしたちは、各々主のためになすべき働きがある。わたしたちは、この働きをしようとしているであろうか。主のご目的を掲げ、主の働きを前進させるために無私で、献身的な関心を持って、働こうとしているだろうか。わたしは、主のみ心をなし、足なえが道からそれないように、また自分の足のために道を真っ直ぐにする決心をしている。かたわで、足なえの者がいる。……神の働きの知識や経験を持っていた者が、誰でも自らかたわになり、運ばれるようになることを神は禁じておられる。役立つ者となりなさい。天のみ心を行うことによって霊的に強くなりなさい。そうすればその時、かたわで、足なえの者を助けることができる。……

わたしたちは祝福され、また、他人を祝福するために、決心と積極性を持って、聡明に、また真心から働こうではないか。(手紙 30, 1888 年)

11月23日

心から主に仕えなさい

「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。あなたがたが知っているとおり、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。」(コロサイ 3:23, 24)

主は肉体的な強さを要求される。そしてあなたは、自分の肉体の力を正しく用いて、なされるべきその働きをすることによって主にあなたの愛を表すことができる。これほどに神に重んじられることはない。……

最も些細な種類の働きにも科学がある。もしすべての者が、そのように考えるならば、彼らは骨折り仕事の中に尊いものを見ることであろう。心と魂がどのような種類の働きにも注がれるべきである。そのとき喜びと能率が生じる。農業や技術関係の職業において、人々は知的、肉体的な力を通して神の賜物を感謝していることをあかしすることができる。教育を受けた能力は働きの方法の各種の改善を工夫することに用いなさい。これこそ主が望んでおられることである。本当になされなければならない働きであるならば、どのようなものであってもそこには誉がある。……

「心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ」(マルコ 12:30)。神は、心の奉仕、魂の奉仕、肉体的力の奉仕に表される愛を求めておられる。わたしたちは、神に対するどのような種類の奉仕にあっても小人となつてはならない。神がわたしたちに貸し与えられたものは何であろうと、神のために聡明に用いるべきである。……農業や建築、あるいは、他のいかなる分野であれ、最善の方法を考案するために、知的で、教育を受けた能力が必要である。それによって働き人は無駄に働かなくてもよくなる。……

自分が引き受けて行う事柄に自分の力を与えるだけではなく、自分の心と知性を与えることは、すべての働き人の義務である。……あなたは、自分を訓練し、改善しようとしないうちに、誤った行為を繰り返し、型にはまった者になることを選ぶこともできるし、反対に最善の奉仕をするために、あなたの力を育成することもできる。そしてそうなれば、あなたはどこでも、またあらゆる所で自分が、人々から求められる者であることを知るであろう。あなたは、それだけの値打ちがあると、認められるであろう。「すべてあなたの手のなしうる事は、力をつくしてなせ」(伝道 9:10)。「熱心で、うむことなく、霊に燃え、主に仕え」なさい(ローマ 12:11)。(SDA バイブルコメンタリー [E・G・ホワイトコメント] 5 巻 1112)

互いに重荷を負い合いなさい

「ある兄弟または姉妹が裸でいて、その日の食物にもこと欠いている場合、あなたがたのうち、だれかが、『安らかに行きなさい。暖まって、食べ飽きなさい』と言うだけで、そのからだに必要なものを何ひとつ与えなかったとしたら、なんの役に立つか。」(ヤコブ 2:15, 16)

助けを必要としている者や、苦しんでいる者に対する義務を怠る者は、主の聖徒の一人としてキリストに対する義務を怠っている。すべての人の審判が神の前で吟味される時、彼らが何を公言したかという質問はなされることは決してない。むしろ、彼らは何をしたかということが問われる。彼らは、み言葉を行うものであっただろうか。彼らは自分のために生活してきただろうか。あるいは、慈悲の心を持った働きや親切な行為、また自分よりも他人を愛する心で他人を祝福するために自分自身を否定することを実行してきたであろうか。もし、記録が、これが彼らの生活であったことを示すなら、彼らの品性には、やさしく、自己否定的で、情け深いことがあらわされており、彼らは、「よくやった」と、キリストから尊い祝福の言葉を受けるであろう。……

わたしたちの霊的な力と祝福は、わたしたちがする愛の働きと善行に比例する。使徒は「互に重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう」と訓戒している(ガラテヤ 6:2)。神の律法を守るということは、善行と自己否定、また自己犠牲と他人の善のために献身することをわたしたちに求める。わたしたちの善行だけが、わたしたちを救うのではない。けれども、善行なしには、救われないのである。わたしたちがなし得るすべてのことをなした後で、わたしたちはなすべき自分の義務を果たしただけで神の行為を受ける価値もない、ふつつかな僕です、と言うべきなのである。……キリストがわたしたちの義でなければならない。……

わたしたちの周りにいるすべての者は、飢えた魂を持ち、言葉と行いに表される愛を切望している者たちである。親切な同情や他人に対する本当のやさしい思いやりの気持ちは、わたしたちが、今まで経験したこともない祝福をわたしたちに及ぼす。そして、わたしたちを救い主との親密な関係に導く。救い主がこの世においてになったのは、よい行いをなされるためであった。その方の生涯をわたしたちの手本とすべきである。わたしたちは、キリストのために何をしているであろうか。(ビュー・アンド・ヘルド 1886 年 7 月 13 日)

天国の美しい音楽

「すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』。」(マタイ 25:40)

キリストは、あがなわれた人々に向かって、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである』』と言われる(マタイ 25:34-36)。……

祈りや訓戒、また会話などは、しばしば低俗な実を結ぶ。しかし、助けを必要としている人、父のない子、やもめの世話をするなどのよい働きの中に表す実は、真実の実であって、自然によい木に育っていく。……重荷を負い、失望したり、悲しんでいる人に同情し、助けを必要としている人に分け与え、裸の人に着せ、見知らぬ人をあなたの家の暖炉のそばに招き、心からもてなす時に、み使いたちは、あなたのそばに近寄り、天においては、その行為に報いる調べが奏でられる。正しい、あわれみのある、親切なすべての行為と行動は、天に美しい音楽を響かせる。ご自分のみ座から御父は、ご自分の最も尊い宝として彼らを見つめ、数えられる。「万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる」(マラキ 3:17)。……

わたしたちの天の父は、わたしたちの道に覆い隠した祝福を置かれる。そしてある者は自分の快樂が減ることを恐れてそれに触れようとしないであろう。天使たちは、わたしたちが自分の手の届く範囲にある良い行為をする機会をつかむのを見たいと一もしわたしたちが他の人に祝福を与えるなら天使たちはそれを見てわたしたちを祝福したいと待っている。主ご自身がわたしたちを異なった状態—ある者は貧しく、ある者は富み、ある者は悩み—におかれたが、すべての者に品性を成長させる機会がある。貧しい者は、このようになるよう神によって目的をもって許されているのであって、わたしたちが自分の心の中にある者を試み、試し、育てることができるためである。(レ・ビュー・アンド・ヘラルド 1886年4月29)

助けを必要としている人や苦しむ人になされるすべてのあわれみ深い行為は、イエスご自身に対してされたように見なされる。あなたが貧しい人を助け、苦しんでいる人や虐げられている人に同情し、みなしごの友となる時、あなたは自分自身をイエスとより緊密な関係に置くのである。(同上)

光と祝福の水路

「人々はペテロとヨハネとの大胆な話しぶりを見、また同時に、ふたりが無学な、ただの人たちであることを知って、不思議に思った。そして彼らがイエスと共にいた者であることを認め」(使徒行伝 4:13)

この世は、神の真理の美や魅力、また善良や神聖などを知ることができない。だから、人々がそれを理解することができるために、この世にそれを示すための水路となるものがなければならない。救い主は教会をその水路と定められた。……わたしたちが他の人々に主をあらわすことができるように、キリストはご自身をわたしたちにあらわされた。……

もしクリスチャンであると主張する人々が、キリストのみ言葉に心を留めるなら彼らと接触するすべての人は、彼らがイエスと共にいて、この方から学んでいることを認めるであろう。……

あがないの血に対する信仰は、わたしの魂を救うことができる。そしてヨハネと共に、わたしは、世の罪を取り除く神の小羊に対してすべての者の関心と呼び起こさなければならない。イエスは、わたしが何にもささげなかったにもかかわらず、わたしを救って下さった。わたしはただ「わたしの手には価値のあるものは何もあります。ただあなたの十字架におすがりするだけです」ということはできる。罪びとは全心に救い主を探求しなかったが、救い主が彼を見出してくださったのである。

わたしたちは「わたしはあなたのとがを雲のように吹き払い」(イザヤ 44:22)。あなたの「多くの罪はゆるされている」(ルカ 7:47)。ああ、神の愛という日光は何と尊く、生き返ったような気持ちにさせるのだろう。罪びとは自分の罪に汚れた人生を見て言う。「だが、わたしたちを罪に定めるのか」それは死なれたキリストである(ローマ 8:34)「律法がはいり込んできたのは、罪過の増し加わるためである。しかし、罪の増し加わったところには、恵みもますます満ちあふれた」(ローマ 5:20)。キリストは、魂に命の新しい原則を植えつける回復者であり、その木は大きく育って、実を結ぶのである。キリストの恵みは許しと同時に清め、人々を聖なる天国にふさわしい者にする。わたしたちはキリストにある男女としての完全な背丈に達するまで、わたしたちの主イエス・キリストの恵みと知識のうちに成長すべきである。ああ、わたしたちすべては、神がわたしたちの前に置かれた高い標準に到達することができ、これ以上信仰生活において小人のままにとどまらずにいるならば!もしわたしたちが神の期待されるような光を伝える者となるなら、そのよい働きによって、この世に向かってどれほどの光がもたらされることであろう。(レビュー・アンド・ヘラルド 1891年7月14)

11月27日

キリストの招きをくりかえして言う

「御霊も花嫁も共に言った、『きたりませ』。また、聞く者も『きたりませ』と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい。」(黙示録 22:17)

イエスは、……また聞く者も『来たりませ』と言いなさい……」と言われる。

悔い改めた心を持つ人々は天からのメッセージを受け入れ、天使の言葉を語るであろう。これは神の招きを聞いたすべての者の仕事である。イエスはサマリヤの女に対して仰せになったが、それはわたしたちすべての者に言われたのである。「『もしあなたが神の賜物のことを知り、また、「水を飲ませてくれ」と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう』。……しかし、……わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」(ヨハネ 4:10-14)。

イエス・キリストによって語られたこの言葉は、これを信じる人々によって繰り返されるべきである。真の信仰を持つ人々は、暗黒の中に住む人々に対して働くことによって、そのことを明らかにする。……彼らは警告や懇願の言葉を語り、この世の谷間の低い流れから渴きをいやされたいと求める人々に、レバノンの雪解け水を指し示すのである。神は働きを始めるために主の血染めの軍旗のもとに兵士として立つ人々を召しておられる。彼らが滅びゆく人々のところへ行くことができるように、主は、ご自分の使命者たちに、聖なる力をお与えになるであろう。(手紙 84, 1895 年)

キリストは罪深い、苦しんでいる世界のために一つの泉を出された。そして「渴いている魂は、だれでもきて、飲みなさい」という、清い恵みのみ声が聞こえてくるのである。あなたは自由に命の水を飲むことができる。聞く者も「来たりませ」と言いなさい。そして求める者は、だれでも来させなさい。すべての魂が、男と同様に女もこのメッセージを広めなさい。その時、この働きは地上の不毛の地にまで届くのである。その日には主は谷間に泉を出し、「砂漠に川を流れさせ」そして「あなたがたは喜びをもって、救いの井戸から水をくむ」というみことばは成就するのである(イザヤ 41:18 参照, 43:19, 12:3)。(教会への証 6 巻 86)

一連の生きたあかしが、この世に神の招きを伝えるべきである。あなたはこの大いなる働きの中のあなたの分を果たしているだろうか?(文書伝道者 18)

無尽蔵の宝庫

「神の奥義なるキリストを知るに至るためである。キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いっさい隠されている。」(コロサイ 2:2, 3)

キリストは言われた「父がお持ちになっているものはみな、わたしのものである」「わたしと父とは一つである」(ヨハネ 16:15; 10:30)。「わたしもそれをあなたがたにゆだね」(ルカ 22:29)。主イエスは、神性の冠を頭にかぶられ、支配し統治するもののすべての安らぎと保証を手になされ、神の永遠のみ座に手をかけておられる。主は神の右に座し、神としての最高の栄誉をお受けになり、この世においてになる前に持つておられた栄光に包まれておられる。主はご自身の賜物を信仰によって求めるすべての人にお分けになる。……

わたしたちは、わたしたちの救いの神のうちに、愛の大海、無尽蔵の宝庫を持っている、神はキリストのみ手にすべての天の財宝をゆだねられ、そして「これらのすべては人間のためであり、わたしの愛する罪を悔いる罪人のためである。……そして彼の幸福のためにわたしは働きつづけるであろう」と仰せになる。人間の幸福は、神と、そして神がおつかわしになった、イエス・キリストを知ることである。み言葉が肉体を取り、わたしたちの内に住まわれたのは、良きことに役立つすべてのものを入れる非常に大きい宝の家を作るためであった。主はご自分の血によってすべての賜物を注ぎかけてくださった。……イエスをわたしたちの世界へ送るというこの賜物は、神ご自身がなされる最高の恵みの提示である。……しかし、一つのことが神にとって不可能である。それは、墮落した人間のために神の愛をあらわすご自分の愛の偉大な賜物を隠すことができないことである。

もし父なる神が、わたしたちの世界へおいでになり、自らへりくだってわたしたちの間にお住みになり、ご自分の栄光をおおうことによって、人間が彼を見ることができたとしても、わたしたちの持っているキリストの生涯の歴史は変わらなかったであろう。……イエスのすべての行為に、彼の教えのあらゆる教訓に、わたしたちは神を見、聞き、認めるべきである。見えるものも、聞こえてくるものも、実際のところそれは天父のみ声であり行動である。

しかし、言葉は、それを表現するのに本当に弱々しく思える。わたしは慎んでヨハネと共に「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか」と叫ぶ(ヨハネ第一 3:1)。(手紙 83, 1895 年)

11月29日

キリストがわたしたちの伝えるべき使命

「なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。」(コリント第一 2:2)

わたしたちの使命の重荷は、イエス・キリストのご生涯とその働きであるべきである。キリストの屈辱や自制、また柔和と謙遜を深く考えよう。そうすれば高慢で利己的な心は模範であられる方と自分たちの間の相違を知り、謙遜になることができるからである。……

もし人間の言葉で表現することができるならば、神の子の屈辱を描写しなさい。主がみ父と共に持つておられた光と栄光の王座を、人類のために後にされた主を見る時、あなたはすべてを理解したなどと考えるはいけない。なぜなら主は天から地へ下ってこられ、地上におられる間、墮落した人類の保証人として神の呪いをお受けになった。彼には、このことをなさる義務はなかった。彼は人間が招いた神の怒りを負うことを選ばれた。……彼は残酷なあざけりや愚弄、またむち打ち、そして、十字架に耐えることを選びになった。……「(キリストは)……死に至るまで従順であられた」が、しかもその死が十字架の死であったために、その死の方法までが宇宙にとって驚きであった。

キリストは、不名誉や恥に対して無感覚でおられたわけではなかった。彼はすべてのことを最も厳しく感じられた。ご自分がそのために苦しんだ罪深い人類の誰よりもキリストのご性質は純潔で、清く、高められていたので、わたしたちが苦しく感じるよりも、もっと深く、もっと鋭敏に不名誉や恥を感じられた。キリストは、天の王であられ、天父と同等であって、天の万軍の指揮官であられたにもかかわらず、人間のために死なれたのである。その上、その死は不名誉と恥辱を着せられたものであった。ああ、人々の傲慢な心がこのことを悟れたなら!彼らがあがないの意味を理解し、イエスの柔和と謙遜を学ぼうと願うようになったなら!……

天と地におけるすべての力を持つておられる方の賜物は、神の子らのために貯えられている。賜物は非常に尊いので、贖い主の血という高価な犠牲を通してわたしたちのところに来る。その賜物は、心の最も深いところにある願いを満たし、永遠に永続する賜物であって小さい子供のように神のみもとへ来るすべての人によって受け取られ、楽しまれる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1888年9月11日)

満ちみちている神の徳

「またわたしは、天と地、地の下と海の中にあるすべての造られたもの、そして、それらの中にあるすべてのものの言う声を聞いた、『御座にいますかたと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように』。」(黙示録 5:13)

パトモスの島でヨハネは、彼を通して人々に与えるよう神が望んでおられる事柄を見せられた。ここにわたしたちが瞑想する価値のあるテーマがある。ここに天の万軍が今日伝えたいと願っている広範で、内に多くのものを含む教訓がある。無限の知恵と無限の愛、そして無限の正義と無限のあわれみ—その深さと高さ、また長さと広さ! 数えきれないほどのペンがキリストのご生涯とご品性、またとりなしの働きを述べるために用いられてきた。そして聖霊が働かれるすべての思いを通してなお、これらのテーマはこの人々の心と精神に丁度調和して、その一人一人に生き生きと、また新しく提示されている。主が送って下さる聖霊は主のみ言葉を受け入れる準備のできた者の心に、このみ言葉を思い起こさせて下さると主イエスは約束して下さった。復活の後、主は彼らがみ言葉を理解することができるよう、彼らに理解力をお与えになった。その時まで、ラビの教えのつまらない考えが弟子たちの目から真理を隠していたので、彼らはみ言葉を理解することができなかった。

真理は、もし受け入れるならば、絶え間ない発展と新しい進展を可能にする。真理はわたしたちが見る時に輝きを増し、それを得たいと望む時にその高さと深さが増大する。このように真理はわたしたちを完全の標準にまで高め、わたしたちの前におかれている働きのための力として、わたしたちに神に対する信仰と信頼を与える。わたしたちはイエスが必要とされたように、真理を必要としている。……主の代理者また証人として、わたしたちは経験に基づく知識によって知らなければならぬ救いの真理を完全に理解する必要がある。

「わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである」(コロサイ 1:14)。これは魂に明記されなければならない大いなる実際の真理である。真理を受け入れる人々に、真理の力と偉大さをすべて理解させることが最も重要なことである。「キリストにこそ、満ちみちているいつさいの神の徳が、かたちをとって宿つて」いる(コロサイ 2:9)。(原稿 153, 1898 年)

研究 4

神の栄光ともう一つの声



天における礼拝

天における礼拝

「天に登録されている長子たちの教会…」(ヘブル 12:23)

天は神の栄光で満ちています。そしてその栄光の中で生きている天の住民たちの礼拝にわたしたちは加わろうとしています。

「主は聖なる者の会議において恐るべき神、そのまわりにあるすべての者にまさって大いなる恐るべき者です」(詩篇 89:7)。

そこに加わるためには、その礼拝がこの地上で始まらなければなりません。

「主をほめたたえよ。わたしは正しい者のつどい、および公会で、心をつくして主に感謝する」(詩篇 111:1 参照)

そして、地で神の栄光を信仰によって見始めた者は、天の礼拝で彼らと声を合わせて神に栄光を帰すのです。その光景を使徒ヨハネは見る事が許されました。

「この四つの生き物…二十四人の長老は、御座にいますかたのみまえにひれ伏し、世々限りなく生きておられるかたを拝み(礼拝し)、彼らの冠を御座のまえに、投げ出して言った、『われらの主なる神よ、あなたこそは、栄光とほまれと力とを受けるにふさわしいかた。あなたは万物を造られました。御旨によって、万物は存在し、また造られたのであります。』」(黙示録 4:8-11)

「…彼らは新しい歌を歌って言った、『あなたこそは、その巻物を受けとり、封印を解くにふさわしいかたであります。あなたはほふられ、その血によって、神のために、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から人々をあがない、わたしたちの神のために、彼らを御国の民とし、祭司となさいました。彼らは地上を支配するに至るでしょう。』…大声で叫んでいた、『ほふられた小羊こそは、力と、

富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい』。またわたしは、天と地、地の下と海の中にあるすべての造られたもの、そして、それらの中にあるすべてのものの言う声を聞いた、『御座にいますかたと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように』。四つの生き物はアメンと唱え、長老たちはひれ伏して礼拝した」（黙示録 5:6-14）。

彼らがほめたたえている神の栄光は、どこに表れているでしょうか。「その血によって、…あがない」、まさに「ほふられた小羊こそは、…栄光を…受けるにふさわしい」「小羊とに…礼拝した」。

これがパウロがピリピ 2 章で示した神の栄光であり、神に捧げた礼拝であり、モーセが岩の裂け目で見てひれ伏した礼拝です。彼らはこの地上でその栄光を見始めたのです。

そして、「その血によって、神のために…あがな」われた者たち、すなわち神が「わが栄光のために」造られた者たちが、このお方を告白することによって、このお方に栄光を帰しています（ピリピ 2:11 参照）。

あなたはほふられ：黙示録 13:8「世の初めからほふられた小羊」。

その血によって：黙示録 1:5「わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し」。

神のために：イザヤ 43:7「わが栄光のために創造し、これを造り、これを仕立てた」。

あらゆる部族：黙示録 14:6「あらゆる国民、部族、国語、民族」

あがない：「わたしはあなたをあがなった。わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ」

これを知る人たちがそれを告白することによって、神に栄光を帰しています。「ほふられた小羊こそは」栄光を帰すのに「ふさわしい」。一同は「アメン」の声になつて、このお方にひれ伏し礼拝します。

しかし、それは天で回復されるのではなく、真の礼拝は、世の始めからほふられた小羊によって許された罪人が捧げてきたのです。

「信仰によって、アベルはカインよりもまさったいけにえを神にささげ」た（ヘブル 11:4）。

「アベルは贖罪の大原則をつかんだ」（人類のあけぼの上巻 68）。

彼の礼拝をまさったものにしたのは、まさにほふられた小羊に栄光を帰していたからです。

これが真の礼拝であり、黙示録 14 章で第一天使が伝えているメッセージなのです。「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである」(コリント第一 10:31)。

そして、天の礼拝に加わる前に、この地が彼の「栄光によって明るくされ」るのをヨハネは見ました。黙示録 14 章では、第一天使に、第二、第三天使が「続いてきて」、メッセージを追加しています。この三重のメッセージは共に伝えられるべきメッセージであり(コリント第一 10:4「ついてきた＝続いてきた」参照)、さらに黙示録 18 章でもう一人の御使が加わり、その結果、この地は彼の栄光で明るくされるのです。旧約でも、全世界が主の栄光に満ちることが述べられていました。「しかし、わたしは生きている。また主の栄光が、全世界に満ちている」(民数記 14:21)。「海が水でおおわれているように、地は主の栄光の知識で満たされるからである」(ハバクク 2:14)。

では、これが、どのように成就するのかを見ていきましょう。

人が同じような立場におかれたときに耐えなければならない痛みや屈辱から自らを救うために奇跡を働くことはなさらないのです。

このお方の告発者たちはヘロデがキリストに奇跡を命じたときに、恐れしました。何よりも彼らが恐れたのは、このお方の神聖な力のあらわれでした。このような力のあらわれは彼らの計画にとって致命的な打撃となり、自分たちの命という代償を払うことになりかねませんでした。そこで彼らは、イエスさまは悪の君ベルゼブルによって与えられた力を通して奇跡を働いたのだと叫び声をあげました。

この数年前に、ヘロデはバプテスマのヨハネの教えを聞いていました。彼は深い感銘を受けましたが、放縦と罪の生活を捨てませんでした。そのために彼の心はますますかたくなになり、ついには酒に酔った祝宴で邪悪なヘロデヤを喜ばせるためにヨハネを殺すようにと命令したのでした。

なすとオクラと玉ねぎの煮浸し

■材料

なす	2 本
オクラ	8 本
玉ねぎ	2 個
塩	小さじ 1/2
昆布粉末だし	小さじ 1/2
お水	200cc
しょう油	大さじ 1
黒糖	小さじ 1
きざみ生姜	小さじ 1
ごま油	適量
ごま	適量

■作り方

1. ナスを半分に切り、格子状に切り目を入れます。その後、2-3 センチに切ります。
2. オクラは塩をふり、板ずりしてあらいます。その後、へたを落として半分に切ります。
3. タマネギは、くし切りにします。
4. 鍋にごま油をしいて、野菜を両面焼き、塩を入れます。
5. 両面が焼けたら、お水、昆布だし、しょう油、黒糖、生姜を入れて、鍋にふたをし、とろ火にして煮ます。
6. 15 分ほど煮てやわらかくなったら、火を止め、そのまま冷めるまでおいておきます。
7. お皿に盛って、ごまをふりかけて、出来上がり。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第44話

ヘロデの前で(1)

ヘロデはイエスさまに会ったことはありませんでしたが、長い間このお方に会ってその驚くべき力を見てみたいと望んでいました。このお方が彼の前に連れてこられたとき、暴徒たちは殺到（さつとう）して押し合い、ある者が何かを叫ぶと、またべつの者は違うことを叫んでいました。ヘロデは静粛（せいしゆく）にするように命じました。囚人に質問したいと思ったからです。

彼はキリストの青ざめた顔を好奇心とあわれみをもって見ました。彼はそこに深い知恵と純潔のしるしを見ました。ピラトがそうだったように、彼はユダヤ人が救い主を訴えた原因は悪意と嫉妬（しつと）だけだと確信しました。

ヘロデはキリストに自分の前でそのすばらしい奇跡のうちの一つを行うようにせきたてました。彼はキリストがもしそうするなら、釈放すると約束しました。彼の指示によって、不具者や奇形者が連れてこられ、イエスさまに彼らをいやすように命じました。しかし救い主は見ても聞いてもない人のようにヘロデの前に立っておられました。

神のみ子のご自身の上に人の性質を取っておられました。このお方は人が同様の状況でなければならぬことをしなければなりません。ですから、このお方は好奇心を満足させるために、あるいは



(41 ページに続く)